

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

永平寺町上志比小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

- ①読み聞かせグループ「お話1.2.3」代表 (1名)
- ②上志比地区民生児童委員 (1名)
- ③上志比児童館指導員 (1名)
- ④上志比小学校PTA会長
- ⑤上志比幼稚園長
- ⑥校長 ⑦教頭 ⑧教務主任

※地域コーディネーター(2名)
学校田運営委員長、PTA会長

(2) 協議会の内容

第1回(7月)

本会の趣旨・スクールプラン・学校の概要・年間行事計画等についての説明と意見交換

第2回(2月)

学校評価の結果と分析
今年度の反省・次年度にむけて

(3) 協議会における成果と課題

- ・学校行事に度々参加していただき、学校の様子を分かっていたので、学校評価の分析に関して、建設的な意見を得ることができた。
- ・異なる立場から学校及び児童を見ていただいたので、学校としては気づかなかった成果や課題を見つけることができ、次年度の活動につながった。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・将来を担う子ども達が、自分の目で見て、手で触れて、食べて、考える。農業の実体験を通じて、生命、食べ物の大切さ、農業の素晴らしさを感じてもらい食農教育事業の一環として実施する。また、田植えや稲刈り、農産物の販売体験などを通じて、地域の人との交流、産業としての農業を学ぶ機会を提供し、子ども達の社会的な成長を促すことを目的とする。さらに、自然や農業の大切さをはじめ、協力すること、他人を思いやること、つらいことにもあきらめず最後まで成し遂げることなどの「心の体験」も多く行い、地域の方から農業に関する様々な智恵を教えることによって、「地域との交流」もはかりたい。

(2) 活動の実際

- ①「田植え体験」 5・6年生 5月
田植え体験を通して、自然の恵みや農



作業の工夫を学び、親子・地域の方とふれあうことができた。



②「稲刈り体験」 5・6年生 9月

稲刈り体験を通して、自然の恵みや農作業の工夫を学び、収穫の喜びを体験した。また、親子や地域の方ともふれあうことができた。

③「道の駅『禅の里』での販売体験」

5・6年生 11月

収穫した米を、校区内の道の駅「禅の里」で販売し、地域の方々との交流や産業としての農業を学んだ。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・学校田運営委員会への参加
- ・人や道具の手配
- ・関係機関（九頭竜オーガニックファーム）との調整役
- ・PTAとの連絡・調整
- ・児童の米作りの世話や準備・指導、水田の水の管理

(4) 特に工夫した事項

- ・わく回しや田植え、稲刈りを昔の方法で行ったことで、昔の人々の米作りには、多くの時間と手間がかかっていたことを実感した。
- ・貴重な体験をさせてもらったという思いを持ち、お世話になった地域の方々への感謝の気持ちが高まった。
- ・活動を通して、一つのことをやりきったという達成感を持つことができた。

(5) 成果と課題

- ・この事業を開始するにあたり、PTAの組織の中に位置づけた「学校田運営委員会」も4年目となり、児童の活動をリードし、年間を通して活動を行うことができた。また、水田の水の管理を、委員が毎日交代で行ってくれた。また、田んぼの状態に応じた水管理表を作成していただいたり、肥料をやっていただいたりした。
- ・田植えでは、ほとんどの児童の保護者が一緒に参加した。
- ・稲刈り体験は、天候の関係で休日に実施することができず、やむなく平日に行った。そのため、5・6年児童と都合のついた役員と保護者の方のみの参加となった。
- ・「九頭竜オーガニックファーム」「道の駅禅の里」といった、地域の各種団体の方々が体験活動の準備や世話を快く引き受けてくださったおかげで、スムーズに進めることができた。
- ・天候に大きく左右される活動な上、時機を逸すると思うような成果が得られない、自然相手の活動であるため、学校行事や地域の行事との日程調整が難しかった。